

アメリカ、カナダ研修ルポ

奥平 志づ江

1. はじめに

9月の初旬から2週間、主に北米大陸の東部海岸に沿って旅をした。自由国民会議（自民党）の海外政治、経済研修団に参加したことで、各都市の連邦、州議会、政党本部、在外日本公館、国連代表部への公式訪問で忙しく窮屈な面もあったが、アメリカは17年振り、カナダは初めてであったため、認識を深め、学んだことも多く、有益であったと回想している。出発前日の夕刻に成田の全日空ホテルに集合して日本交通公社の旅行日程と手続きについてのブリーフィングがあり、団長（参議院議員、井上卓氏）と副団長（同、永田良雄氏）の挨拶と団員（29人）の自己紹介で結団式を終り、夕食と団長主催の晩餐会で初日を過ぎた。翌朝は、ホテルで朝食を済ませて成田発11時20分の全日空NH002便でワシントンへ直航、3時間余で日付変更線を通過して、ワシントンDC（東京と時差13時間）のダレス空港に着いたのは、成田発の日時と殆んど同じ9月10日の11時頃である。飛行時間も約13時間で、此の間に機内で昼、夕、朝の三食を済ませ睡眠不足のまま、ワシントンでの行動を始めた。以下、各地で見聞した体験と知識の概略を述べる。

2. ワシントンDC(特別区)

ダレス空港から特別バスでハイウェイ（空港から市内への専用道路）を1時間近く走って、チャイナガーデンで昼食の後、広大な（約200ヘクタール）アーリントン墓地（アメリカ国民の英雄と第一次、第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争

の戦死者が葬られている）に次いで、ペンタゴン（国防総省）の巨大な五角形のビルを右に見て左に迂回し、ポトマック河とワシントン運河を跨いで市内中心部に入った。アメリカ合衆国の独立（1779年）後間もなく、初代大統領ジョージ・ワシントンは首都をフィラデルフィアから此の地に移すことを決定して建設を始め、1800年に第2代大統領ジョン・アダムズが土埃の舞う未完成のホワイトハウスの最初の住人になったと言われる。ワシントンDCはメリーランド州とバージニア州に挟まれた小地域で、行政的には連邦直轄の特別区であるが、他の諸州と同格の地位にあり、1974年に住民の選挙で初代の市長が選ばれたと聞いている。町並は整然と区画され、緑豊かで落ち着いた街とアメリカ人が誇りにしているのも頷ける。夏は高温、多湿で寒暖の差が激しい此の地が首都に選ばれたのは、大西洋に開くチエサピーク湾に50料と近い要衝の地でもある故と聞く。市街は自然と建造物が美しく調和し、幾つかの広場から放射状に延びる固有名詞（州名など）のアベニューと、碁盤の目に交差する数字（東西）とアルファベット（南北）のストリートで区切られているので、番地表示が判り易く、桜並木（日本から移植された）に河畔を縁どられたポトマック島を挟んで南北に広がる大公園のような街である。デュボン広場からマサチューセッツ・アベニューを西北へ、自然公園近くの森に囲まれた閑静な所にある日本国大使館（写真1）を訪れた。松永信雄大使のお話しの中から、最も印象に残ったことを抜粋してみる。

私がここに居りまして肌で感じますことは日本

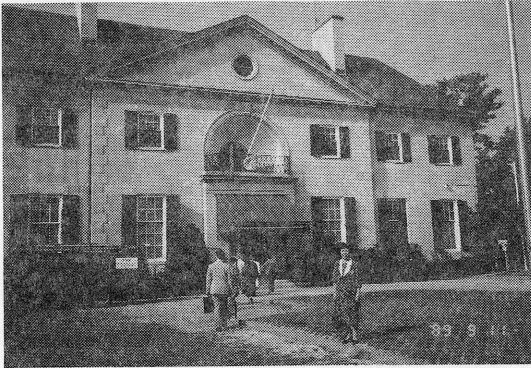


写真1 ワシントン日本国大使館

とアメリカの協力関係が円滑に進まない、日本の経済、政治、防衛に十分な保障が得られないから、繁栄と安定も進められない。ブッシュ政権が発足した（1月20日）頃には、昭和天皇が亡くなられて、天皇の戦争責任に対する論議がアジア、ヨーロッパ等で再燃しており、特にアメリカからは誰が大葬の礼（2月24日）に参列するか、日本は勿論、世界中が注目しておりました。ブッシュ大統領は、就任後僅か一日余りで国務長官同伴で参列することを決定しました。このことは、まさに日本がアメリカにとって、如何に重要であるかということが大統領が非常によく認識された結果の結論だと理解している。大葬の礼に行かれる途中、アンカレッジでの記者会見で「天皇の戦争責任については国際的な問題になっており、ブッシュ大統領自身も前大統領では日本の軍用機に撃ち落され九死に一生を得ているのに大統領として参列するのは間違っていないか」との質問に、大統領は即座に「自分、アメリカの大統領にとって大事なことは、現在と将来であり、それを考えれば、日本とアメリカの現在と将来に日本が如何に重要であるかを認識した為の結論であるから自分の決定は間違っていない」と答えたと聞いて私は大変感動した。これは大統領だけでなく、政界、財界で指導的立場にある人達も同様に理解していると思う。アメリカは大国で、日本の面積の25倍、人口は2倍もありますから、場所によって、人によ

って、日本に対する考え方、見方も非常に違います。そのような、批判と親近感が複合されてアメリカの日本に対する考え方、見方となるわけです。マスコミは、よいニュースや成功した例より、悪いニュースや失敗談を伝える傾向があることを皆さんは理解して貰いたい。私は日本車を使っている人に偶々「貿易が赤字になっているのに何故、日本車を買うのですか？」と聞くのですが、「日本の自動車がいいから、政府が何と言おうと、私は断然、日本車を買う」と言われました。また、中国の天安門事件に対する人権問題に関する感覚が日本に比べるとアメリカは鋭敏であると思います。その後、パリーサミットもあり、コロンビアの麻薬問題に世論の関心が行ったために、中国にはそのシグナルが充分届かなかったようです。関西空港の建設に絡む談合問題から起きた日米構造協議では日本の排他的な商慣行が非難されましたが「ケイレツ」「ダンゴウ」は既に英語になっております。「スーパー301条」の適用品目に「スーパーコンピューター、人工衛星、木材」の3品目が定められた。「日本では何故、木材に関税をかけるのか」と聞かれるが、何が不公正かの基準の問題で議論があります。その他、麻薬、環境、住宅、教育、外交、インフレの問題とカンボジア、中南米の状況についても色々説明されました。松永大使のお話しを聞いて国の代表としての責務は大変なものだと実感した次第である。

官庁街の一角にある民主党本部を訪れた際、ジョン・ディーンズ議員は民主党の党内状況と、大統領選挙や連邦議員の選挙で、事務局が広報活動、資金集め（法定限度額までの）、候補者の選定で如何に苦勞しているかの裏話を披露されました。一番街にある共和党本部では広報担当のグラハム・パターナム議員が党内事情と活動の状況について説明されてから、昨年の議長報告書（英文）を参考にと各人に配られたが、民主党との違いを十分に理解することはできなかった。共和党は奴隷制度に反対する進歩的な（注：現在は保守とみられる）連合体として1854年に結党され、1860年に

エイブラハム・リンカーンが同党初の大統領に選ばれたことを強調されたことは印象的であった。そこで、両党の違いはシンボルマークのロバ（民主党）と象（共和党）から想像する以外にないかと感じた。注：ロバは低所得者を意味するとか。

次は主要な建造物について述べる。

西ポトマック公園にあるリンカーン記念堂は豪華な白亜の殿堂で、室内には巨大なリンカーン像（写真2）が安座している。記念堂の前にある長いフレクティング・プール（反射池）の先方に映る高い尖塔はワシントン記念塔でワシントン市のシンボルのように何処からでも見られる。ポトマック島の北端にあるトーマス・ジェファーソン（民主党創設者）記念堂はドーム状の丸屋根でリンカーン記念堂とは趣きを異にする。ここからタイダル湖の対岸にワシントン記念塔、その先にホワイトハウスが直線状に位置する。ホワイトハウスは白亜の殿堂で、アメリカのシンボルらしく美しい建造物である。1814年の米英戦争で英軍の焼き討ちに合って全焼し、1817年に再建され白く塗り替えられたのがその名の由来とも言われる。内部は132室と広いのに質素な感じで、日曜、月曜を除く平日は10時～12時に一般公開されているが、

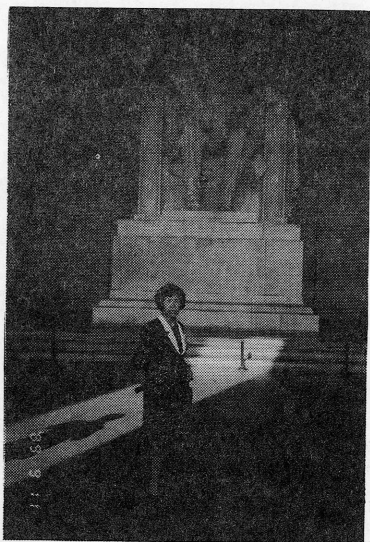


写真2 リンカーン座像

内部撮影は禁止されている。ワシントン運河から北に延びるサウス・キャピタル・ストリートの突き当りに連邦議会議事堂の偉容を見る。1793年にワシントンが礎石を置き、1857年に完成したと言われる。真中のドームの高さは77mで、その頂には自由の女神の像が立っている。中央ホール天井と壁には大きな壁画が一杯で、各ホールの入口にはブロンズと石の彫像が多く立ち、無料で開放された美術館のようである。

スミソニアン航空宇宙博物館には第1～第4回までの宇宙船ゼミニが展示され、月の石にも触れることができた。又、最初のフライトで有名なライト兄弟の飛行機（模型）や前大戦の花形戦闘機のグラマン、ドイツのメッサーシュミット、イギリスのスピットファイヤー、日本のゼロ戦も展示されている。夕食をハゲイタス・レストラン（海鮮料理）でロブスターまがいのクレイフィッシュ（巨大なエビガニ）を味わった。

3. メリーランド州

ワシントンに2泊して、翌朝バスでメリーランド州都のアナポリスへ、州議会にマイク・ミラー上院議長とクラグトン・ミッチェル下院議長を訪問した。最初の挨拶で「本日はアメリカの国旗が作られて175年の記念日に当たります。南北戦争の時に、ポトマック川を境にしていたメリーランド州は南軍への参加を呼びかけられました。現在、皆様をお迎えした此の部屋はキャムアップと言って、元は（1781年～1783年までの間）連邦議会の下院議場であり、初代大統領のジョージ・ワシントンがダンスを踊ったところです。この事と併せて皆様が来られたことを非常に名誉に思います」と言われた。質疑応答に入り、両議長さんの所属について民主党か共和党かと尋ねたところ、上院議長が「共和党なんて知りません。(笑)メリーランド州は民主党で有名です。下院は141名の議員の内17名が共和党で残り124名が民主党です。上院は40名の議員中、7名が共和党で33名が民主党です。」「アナポリス海軍兵学校の開校は何年頃ですか」

の間に、「南北戦争（1861年）より前の1840年代です」「メリーランド州で一番の問題は何ですか」に対して、「これはアメリカ全体の問題でもあります、犯罪が非常に増えていることです、これは麻薬と大きく関係しています。監獄を作ることで犯罪者の扱い方が大きな問題になっています。日本は昔から家族の連帯感の強いことが基本になっていることを知っておりますが、アメリカでは麻薬のため家庭が崩壊しております。麻薬が南アメリカから入り易く、ここ数年は特に中毒性の強いコカインが多く、家庭だけでなく教育の崩壊も進んでいます」「メリーランドと日本の結び付きは？」に対して、「神奈川県と姉妹州であり、メリーランド・パシフィック湾でとれる非常に美味しい、ソフトシェルクラブ（脱皮直後の柔らかいカニ）を日本に輸出しております。又、ボルチモア湖は大きな美しい湖ですから、ゴールド観光で日本の皆様に一層利用されることを期待しております」

「州の主な産業は？」に対して、「ここはワシントンDCと隣り合わせであるため、多くの人が連邦政府と州政府又は軍の施設で働いています。又世界で最も大きなパシフィック湾に沿ってウォーターフロントが長いので水産業が盛んです」「日本についての感想は？」に対して「日本は戦後、世界が期待した以上の成功を遂げました。世界が日本の家族本位の考え方や、仕事に対する礼儀を学べば、良い国になると思います」「消費税についての御意見を」に対し「アメリカの消費税は各州によって異なります。メリーランド州は5%ですが、隣のデラウェアでは消費税は全くありません」大変有意義な話しを伺って州議会に別れを告げた。

海軍兵学校を見学の後、ボルチモア港のチャート（海図）・ハウス・レストランで昼食を済ませて、ハーバー・タワーより全市を展望、ショッピングと海岸の散策を楽しむ。有名なホームラン王のペーブブルースの生家が記念館となっており、長島と王のサインボールも展示してある。夕方ボルチモア空港をYS-11より少し小さいプロペラ機

（定員100人程）でニューヨークに向う。乗務員はパイロットと黒人スチュワーデスの2人だけ。ドアの開閉から機内サービスまで彼女が甲斐がいしく働くのには感心した。1時間程でニューヨークのケネディ空港に着陸、出迎いのバスに乗って21時頃にシェラトン・センターホテルにチェックイン、遅い夕食を頂く。ホテルは7番アベニューと52番ストリートにあるが、流石、大都会だけあって、窓から通りを眺めると夜中も人通りが絶えない。

4. ニューヨークで

ニューヨークの第一夜は明け、朝食でウェイトレスの優しいサービスで睡眠不足を忘れた感じ。専用バスで海産物倉庫の立ち並ぶ海の玄関口、バッテリーパークよりカーフェリーでブルックリンへ、自由の女神を間近に見て、しばし洋上遊覧を楽しむ。洋上より眺めるマンハッタン島の高層ビル群の景観は素晴らしい。（写真3） 続いて総領事館に、英（ハナブサ）総領事を訪問し、講演拝聴、意見交換を行って再び街へ、マキ宝石店、ティファニーに立ち寄って14時頃、日本料理店「しん和」で昼食をすませて国連ビルを参観後、近くの国連代表部で瀬崎国連大使の講演と意見交換を行なう。ジャパン・オン・ザ・グリークでビフテキの夕食をとる。21時からオブションでマリOTT・マーキス・ホテルの49階で夜景を楽しみなが

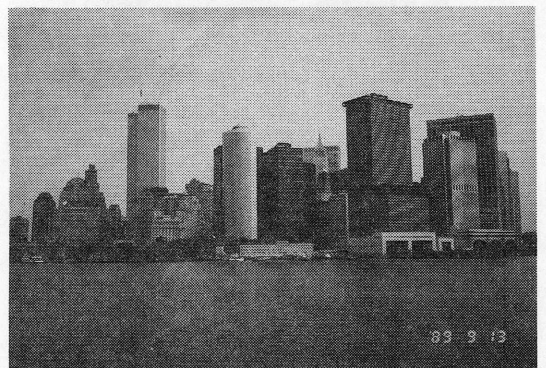


写真3 ニューヨーク マンハッタン島の高層ビル

らミュージカルとディスコに夜を更かした。

5. カナダへ

朝食後、ホテルをチェックアウトしてバスで、ラガーディア空港へ、11時40分に離陸してモントリオール・カナダ国内空港に12時40分到着した。日本料理店「桂」で和食器に盛られたお寿司、天ぷらを頂く。室内にはお振り袖が2着、美しく衣裾に掛けて飾られており、従業員も皆和服姿で懐かしく日本に居るような寛ぎを感じた。15時頃に日本総領事館を訪問し岩崎総領事の講話と意見交換を行って、市内観光。ゴシック建築の粋を集めた豪華なノートルダム寺院、花と緑で飾られたジャック・カルディエ広場(写真4)を散策して、芝生と樹木で広々とした総督邸と首相公邸を見学。ケベック州議会議事堂は花と緑に映え、国章のメープル(楓)並木も美しい。大西洋へ流れるセントローレンス河の河口から近いだけに、広大な河畔に敷きつめた芝生と森に囲まれた住宅街はゆったりした感じである。カナダではフランス人が最初の移民で英、仏両国語が公用語であると聞いた。

6. オタワへ

翌日は早朝にホテルを出発し、モンテキュ大学、マウント・ロイヤル地区を經由してモントリオール空港に到着、1時間後にモントリオール空港を離陸し、30分後にオタワ空港に着いた。オタワ市内



写真4 モントリオール ジャック・カルディエ広場



写真5 オタワの市場

(写真5)を視察したが、モントリオールと同様にセントローレンス河畔に展開した緑豊かな美しい静かな街である。在カナダ日本大使館でカナダの歴史、経済について北村汎駐加大使の講演と意見交換が行われた。その中からトピックを拾ってみると、先づ海部総理が就任早々、外遊先にカナダを選んだことで、カナダでは日本の首相を高く評価し、マルルーニ首相、クラーク外務大臣、ソベ総督等は自分達の日程をキャンセルして観迎してくれたとのこと。訪問先のアメリカやメキシコでも同様の効果があったと考えられる。これは私達の訪問より数日前のことである。又、カナダは10州もある広い国で隣の州に行くにも飛行機が利用されるために国内航空路が発達して軽飛行機の生産も多く日本の資産家も買っていること。カナダ最東のニューファウンドランド州でとれるシシャモを日本が大量に買ってくれること、カナダは天然資源に大変恵まれているため、日本にとっては、オーストラリア、スイスと共に貿易赤字国であること。マルルーニ政権は累積債務を減らすために緊縮予算を組み、生産段階で課税する間接税を計画しているので昨年11月47%だった支持率が27.7%にまで下がっていること。現在の間接税はまったくの蔵出し税(製造業者と卸売業者間だけ)でその他には何もないし、サービスにも課税されないから税制改革がどうしても必要だと言うこと。カナダから日本に輸出しているのは、エネルギー

資源（石炭）、木材や菜種、そば、ししゃも、ロブスター、ズワイガニ、上質の小麦粉等の食料源であるが、ハイテク製品も買って貰いたいとのこと。因みに、アメリカの宇宙船につける宇宙活動用のアーム（月の砂、石等を収集した）はカナダ製である。カナダでは日本語の教育も盛んであり、カナダ人で日本の高校や中学で英語を教えている人も多い。大使館を辞去して、国会議事堂を見学したが、ここでも歴代の首相、英雄の胸像や立像、壁画が見事であった。

市内観光を終って夕方、ノホテル・オタワ・ホテルに到着。

7. トロントへ

翌朝ホテルを出て、オタワ空港を離陸してから約1時間でトロント空港に到着、空港近くのヒルトンホテルで昼食をとり、再びバスで130軒の道程をナイヤガラへ。途中、ナイヤガラ近くの花時計で下車、少憩の後30分程でナイヤガラの滝に到着、カナダ滝側から小雨の中を雄大な大自然の景観に見とれた。（写真6）目の前を滔々と滝壺に争って流れ込む巨大な水流に呑み込まれそうな恐怖感を覚える。カナダ滝の滝壺は水煙でよく見えないが、彼方のアメリカ滝ははっきり全容を誇示している。その後、カナダ滝に近いメイフェア斉藤（群馬県人の斉藤さんが経営する土産物品店）でショッピングをしてナイヤガラを出発、18時30分

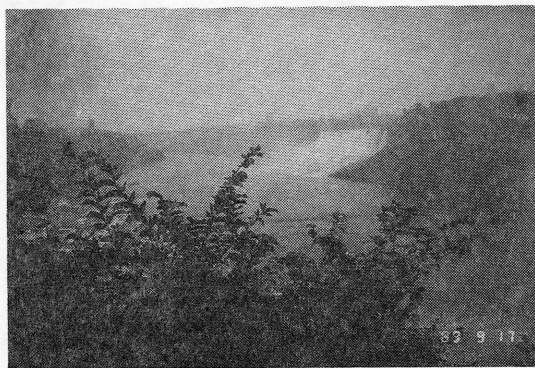


写真6 トロント ナイヤガラの滝

トロントのホテル・シェラント・センターにチェックイン。夕食後トロント市内を散策して1日を終った。話は前に戻るがアメリカ滝の滝幅は300mでカナダ滝はその2倍半と言われる。西よりスペリオル湖、ミシガン湖、ヒューロン湖、エリー湖と続く四大湖の水がエリー湖と100mの水位差のあるオンタリオ湖に流れ込む途中、バッファロー市の付近でナイヤガラの滝となってオンタリオ湖に注ぎ、そこからセントローレンス河となって大西洋に流れる。

8. オーランドへ

朝4時起床、5時ホテルを出発、朝食は空港で、カナダ出国、アメリカ入国の手続きを終えて7時半にトロント空港離陸、南に向う。1時間後にエリー湖南岸の都市クリーブランドに着き空港で2時間待機、大型機に乗りかえて10時半に離陸し、機内で軽食をとり、13時にオーランド着、バスでケープ・ケネディーのNASA（航空宇宙基地）へ、その入口近くの海鮮料理店で再び昼食をとり、ケネディ・スペース・センター（ロケット発射場）を見学してオーランドへ戻る途中のディズニーマールド・ビレッジ（ウォルト・ディズニーの生地）に夕暮れ時に到着、ヒルトン・ディズニー・ワールド・ホテルにチェックイン。24時頃、親類のグローバー夫妻の来訪を受け、午前2時頃までホテルのバーで歓談して別れた。翌朝、ディズニー・ワ

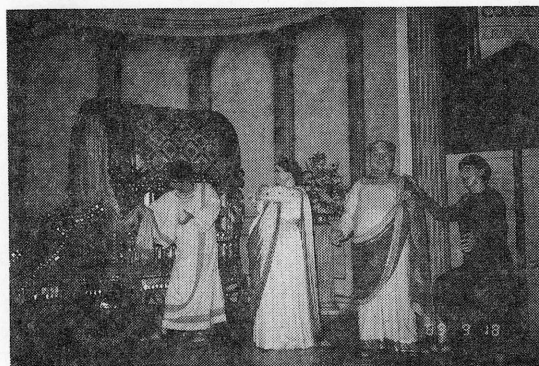


写真7 エプコットセンター 電気仕掛の人形

ーランドの施設であるエブコットセンターを見学、トンネル内に装置された電気仕掛の人形（写真7）の歴史館を電気自動車で回覧、三越レストラン（鉄板焼き）で昼食後、モノレールでマジック・キングダムへ、同館を見学して16時頃にオーランド空港に向う。

9. マイアミへ

オーランド空港では再びグローバー夫妻の見送りを受ける。マイアミ付近の天候不良のため、飛行機の出発が大幅に遅れ、19時半頃マイアミへ向けて出発、離陸直後から雷雲に見舞われ、機の右側でイナズマが頻りに走って塔乗客は皆不安に包まれる。マイアミ上空にさしかかって美しい海岸都市の夜景が広がる頃には雷雨も止んで、20時半、マイアミ空港に無事着陸。特別バスでホテル・ファウンテン・ブルー・ヒルトン・リゾートに21時チェックイン。遅い夕食をとってベットイン。翌朝は古い小型バスでマイアミビーチへ、遊覧船で豪華な別荘（写真8）の立ち並ぶベイ・ハーバー・アイランドを一巡後、ホテルで昼食。午後16時半までマイアミ市内を視察して、マイアミ空港へ、18時20分にマイアミを出発、ヒューストン（スペース・シャトルの着陸管制基地）に19時30分（現地時間20時30分）に着陸、10分後にロサンゼルスへ向けて出発、22時10分にロサンゼルス（東京との時差16時間）に到着。23時にホテル・ウェスティン・センチリー・プラザにチェックイン。



写真8 マイアミ・ビーチの別荘

10. ロサンゼルス

翌朝はロデオ通りを散策、バスで市内観光、現地のガイドの懇切な説明と女性運転手（黒人）の優しい心遣いに感心。途中の自由行動でティファニー貴金属店やエクスプレス骨董品店に立ち寄る。昼食は日本料理店「大和」で。午後はサンタモニカビーチ、ベニスビーチ、フィッシャーマンズビレッジを散策後、免税品店へ。夕方、ハリウッドのチャイニーズ・シアターを見学、映画の街の雰囲気は十分感じられた。シアター前の敷石に刻まれた有名俳優のサイン、手形、足形等が観光客の足を留める。サンセット通りを経由してホテルに帰る。19時半よりホテルの広間で団長主催のサヨナラ・パーティの折に、9月生れの人（たまたま女性ばかりであった）数人のために大きなケーキにローソクを立てて、誕生を祝福され、感謝の気持ちにひたりながら明日の別れを惜んだ。

11. 日本へ

朝食後、荷物の整理を終え、10時にホテルを出発して空港へ。13時25分ロサンゼルス発、全日空NH005便で日本へ飛ぶ。途中、日付変更線を通過の瞬間に9月21日から22日に変る。約11時間後の16時35分に成田着。機内積込みの荷物を探し当てるまで2時間近く経過、夜更けて我が家に着く。14日間の旅は恙なく終わった。

12. 研修を終わって

研修を終わって学んだことをまとめて次に述べる。

(1) アメリカ、カナダの急速な発展をもたらした原動力は、経済的には、広大な土地と豊富な資源を活用して開拓当初から精力的に努力を続けたことであり、政治的には、多民族国家を治めるために、人種差別廃止、少数民族の権利と文化の保護、地方自治権の尊重、信教の自由等の民主化政策を先行して進めたことであり、文化的には歴代の政治家、英雄、芸術家、文化人に対する尊敬の念が篤く、歴史的遺産を護り続けてきたこと

であろうと考えた。

(2) 貧困と麻薬と犯罪の悪循環を断つことの難しさと、これが家庭(家族関係)と社会(治安)の崩壊、ひいては教育の荒廃につながることを理解することができた。

その理由は、

中南米からの麻薬の密輸に対する取り締りは難しいこと。

失業、無気力、貧困、麻薬(ストレス解消と禁断症状の苦痛から逃れるために買う)、犯罪(麻薬代を得るため)も連鎖すること。

麻薬(コカイン)の注射器を共用するためにエイズ患者が殖えていることである。

(3) 私達は落語家のようにジョーク(上品な洒落)ができるように努力する必要があると感じた。ジョークは政治、社交、教育等、日常生活のすべてに必要であり、世の中を明るくすることを悟った。ジョークのうまい人は頭を使うから他人の意見を鵜呑みにせず自分の意見をはっきり言うことができる。メリーランド州議員の会話とマイアミビーチに行った時のバスの運転手のジョークにアメリカ人の平均的性格を知った。

(以上)